

## 第九を聴く

先月号では私の70歳の第九の解釈を掲載しましたが、今年は多くの雑誌で第九の特集があり、12月は例年以上に第九が盛り上がりそうで歓喜です。今年になって私がい求めた第九関連の本は次の通りです。

### 1. 私の〈第九〉

シラーの詩「歓喜に寄す」からベートーヴェンの「歓喜の歌」へ

著者：藤井義正さん（神戸新聞総合出版センター刊）。

私は一読して感動して我を忘れ、著者に手紙を書きました。住所は分かりませんから、出版元へダメもとで依頼しましたところ誠に親切なこれ又感銘深いお手紙を頂きました。6歳先輩ですので、その郑重さに恐縮しているところです。高校生の時から第九を聴かれている大先輩ですが、ロマン・ロランの「ジャン・クリストフ」まで遡る共感を懐かしく有難くお教を乞っています。30代半ばから第九の翻訳に疑問を持たれ研究を続け2008年8月1日にその新しい見解を上梓されたのがこの本です。

(1) シラーの「歓喜に寄す」の全文を、氏独自の翻訳をされている。

独文和訳が9節全文掲載され且つ研究の過程を明確にされている学問的な内容です

(2) 更に各節について感性豊かな解説があり、感銘の連続です。

(3) 第九の解説も親切に各楽章ごとに分かり易く記されています。

- ・第一楽章 試練、不気味運命の足音
- ・第二楽章 ユーモアとは、にもかかわらず笑うこと
- ・第三楽章 大いなる懐に抱かれて
- ・第四楽章 存在することそれ自体が喜びだ

この見出しだけで、感性の共感的震えを感じました。

ユーモアの定義はドイツ文学に精通している者でなければ解らないことです（私は上智大学のデーケン先生から教わったことについては言及済みです）。

ある若い人のサークルで「存在としての人間という本」（谷口隆之助著）をテキストにリーダーシップの学習を始めようとしていた矢先に藤井氏の第四楽章の説明に出会ったのです。驚き以外の何ものでもありません。

(4) 第四楽章合唱の意味を理解するのに多くの人は困難を感じていると私は思っていました。然し、訳の意味など解らずともこの第九は世界の人々に感動を与える不思議な力を持っているわけですから訳などは二次の問題ですが、より深く知りたいと思うのも人が持つ知識欲です。今年やっと挑戦したのが前月号です。

難しい所は沢山ありますが、繰り返し歌われる「いく百万の人々よ、互いに抱き合おう！この口づけを全世界に与えよう！」というところが解らないで困ってしまいました。

これを見事に解決してくださったのが藤井義正氏の著書でした。

深く研究されて細かい脚注にも注目されて「脚注では『抱かれてあれ』とあるのに訳の本文では『抱きあえ』となっていた。

脚注では受け身形なのに本文では能動形だったのである。」

受け身にすると主語を明確にしなければなりませんから多くの訳はそれを避けていたのではないかと私は思いました。ここを受け身に訳すとかなり全体がすっきりと理解できるようになります。

「誰に抱かれるか」

藤井さんは「大宇宙に抱かれて、生かされている、この喜び」と解されて、許された存在を加味されて「抱かれてあれ」とされているようです。深い解釈です。

(5) シラーの両親について次のように記されています。

「父カスパルは、ルターの流れを汲むドイツ敬虔主義の一つの派、シュワーベン敬虔派の有力な指導者、ヨハン・アルブレヒト・ベンケルの説教を好んで聞いた。また母エリザベータは、ルター派の牧師で今日でもドイツ最大の讃美歌作家として親しまれているパウル・ゲルハルトの讃美歌を愛し、シラーにもよくパウルの詩句を読んで聞かせていたといわれる」

私はここから第九に出てくる「薔薇」に意味づけの根拠を見いだしました。前号にも記しましたように、白い薔薇はルターの紋章になっています（薔薇は聖霊降臨日の徴、白は聖霊を表す。徳善義和先生）。

白い薔薇は救い主を表すと解すればシラーの「歓喜に寄す」は非常に理解しやすくなります。藤井さんの著書に触れて「歓喜＝神」又は「歓喜をもたらす神」そんな確信が持て前号の私の 70 歳理解を披露したわけです。

(6) 「この口づけ（接吻）を全世界に」は藤井さんは「全世界からの、この口づけを受けてあれ」との仮説をたてられ研究を続けておられ、2011年09月16日の随想・第九高原逍遙&フォーラムでその成果

を発表されています。この成果の素晴らしさ、解釈の深さはルターの宗教改革の出発点に匹敵すると私は考えています。ルターは「神の義」を解釈するのに辛苦するわけですが、同じ思いを藤井さんがされています。ドイツ語の文法の難しい話になりますが、所有格の「の」をどう解するかということです。「der ganzen Welt の der を、ドイツ語の文法でいう3格（与格、一に）とる」か「2格（所有格、一の、からの）とる」かの違いを指摘されています。後者をとれば「全世界からの口づけ」となります。

この話はこれから私が挑戦しようとしていますルター研究で詳しく発表したいと考えています。藤井さんの先陣を追って行こうと思います。

指揮者の佐渡裕さんは小松雄一郎訳を取って「百万の人々よ、わが抱擁を受けよ！この接吻を、全世界に！」と解され、藤井さんの考えに近いかもしれません。

私は接吻の意味づけを「神の赦しと愛」と解して、双方の訳を併記しました。

(7) 藤井さんから第二弾の凄い資料を頂きました。感謝してこれからの研究に用いさせていただきます。

## 2. 日経おとなの OFF

### 12月号 第九入門

佐渡裕さんの監修で、一緒に歌える完全歌詞 BOOK があり、第4楽章「歓喜の歌」がドイツ語とカタカナで合唱の部分が原文通り載っています。友人の中学2年の息子さんが音楽の授業で第九をドイツ語で暗記せねばならいと聞きお貸ししました。若いときに覚えると忘れないので彼は良い先生にめぐり逢ったと思います。

### 3. リーダーシップは「第九」に学べ

著者は指揮者の小松長生さん（日経プレミアシリーズ 新書版）。

日頃から私が考えていることを指揮者の立場で書いておられるので面白かったです。目次を紹介します。

#### (1) 指揮者のリーダーシップ

- ・そもそも指揮者は必要なのか？
- ・てん指揮台ではリーダーは丸裸にされる
- ・いないようである、見ていないようで見ている。
- ・「何もしない」というリーダーシップもある

#### (2) 組織としてのオーケストラの率い方

- ・任せるところは任せる
- ・良いリーダーは時間があまる

#### (3) リハーサルに大切なマネジメント力

- ・自分を飾らず素のままだと受け容れられやすい
- ・無駄のないテキパキとした仕切り
- ・自分に対して冷静な観察眼をもつ

#### (4) 指揮者は棒を振るだけではない

- ・オペラの指揮は「危機管理」
- ・バレエの指揮は第六感も動員

#### (5) リーダーはどうやって育つのか

- ・音楽の癒やす力
- ・リーダーは仕事だけでは深みが出ない

これだけの話があつてやっと出てくるのが、

#### (6) ベートーヴェン交響曲

第九番（「第九」）の魅力

- ・闇と光、人生のすべてが表されている

- ・「歓喜の歌」に魅せられた人々

#### (7) ベートーヴェン「第九」曲目解説

最後のページに小さな文字で書かれた所に著者の本音を発見して嬉しかったです。それは合唱の部分の詩の解釈です。

筆者は「死の試練を経た一人の友」をイエス・キリストをさしていると考え。と記しておられます。

### 4. MOSTLY

1月号（2012年）は第九・交響曲ベスト10の特集を組んでいます。

### 5. 音楽の友

12月号は創刊70周年記念号ですが「日本人と第九」の特集があります。創刊が1941年で私の生まれ年と同年あることが判り購入しました。付録に創刊号の復刻版がついており当時のベートーヴェン論が語られています。

### 6. 第九・ベートーヴェン

#### 最大の交響曲の神話

中川右介著 発注済 未読

### 7. オーケストラの文明史

小宮政安著

文明史における第九の意味を学者の立場で感情を交えず書かれている。時代背景の影響など興味深いものです。

### 8. 第九歓喜のカンタービレ

ネット武蔵野発刊 著者は沢山の著名人、圧巻は茂木大輔さんの「第九」の初演の時はこんな風だった！DVD付きです。数年前に買ったものです。逐語訳もあり参考になります。先月号のドイツ語の原本歌詞はこの本からコピーさせて頂きました。

日本で初めての第九は1918年（大正

7年) 徳島県の板東収容所でドイツ人捕虜によってなれた。映画「バルトの楽園」で紹介されています。その資料も掲載されているのがこの本です。

表紙の裏面はグスタフ・マラーの「ベートーヴェン・フリーズ」と題する絵画が鮮明に印刷されています。私はウィーンに行きますと必ずこの絵を見にいきます。難しい絵です。向き合ってどう解釈するかを考えるのが楽しみなのです。今回接吻の意味付けをしましたのもこの絵のおかげです。

以上8冊に巡り逢いました。

CD、DVD も沢山ありますが日本語訳の入ったDVDは少なく、数年前にNHKで放映された朝比奈隆さん指揮のものが初心者の私には参考になりました。

CDは多くの方の推薦のあるフルトベングラー版がいいです。古い録音にもかかわらず、合唱も調和していて群を抜いていると私は感じています。

今年は9月にボンで第九を聴いてきました。12月はゲネプロ付きを東京で3回鑑賞します。

## 9. にもかかわらず

多くの試練が人類的規模でありましたが、にもかかわらず

「苦悩を突き抜け歓喜に至る」は人類共通の願いです。音楽を始めとする芸術には、国境はありません。争いが愚かで無意味であることを「歓喜の詩」から一人でも多くの方が学べますように。特に政治家、官僚の方々に神のお恵みが豊かにありますように。ベートーヴェンの「英雄」や「運命」も一緒に聴こうではありませんか？

ここに前月号の私の70歳理解の解釈を再掲します。

おお、友よ、この調べではない！  
もっと快い、喜びに満ちた調べを  
歌おうではないか！

歓喜よ、歓喜よ、歓喜を与えたもう神よ  
聖霊の光輝く神よ、楽園からの乙女よ  
我らは燃えるような喜びに満ちて  
主の聖所に向かいます。  
あなたの神秘的な力は、時が残酷にも  
引き離されたものを再び結びつけ、  
あなたの優しい翼のとどまるどころ  
人々はみな兄弟となる

一人の友の友となるという  
大きな幸運に恵まれたものは  
何と幸せなことか  
優しい妻を迎かえんとする者は  
何と幸せなことか  
歓喜の声を合わせ、主に感謝しよう。  
そうだ、この世にたとえ一人でも、  
真の友と呼べる人がいる者は  
何と幸せなことか。  
しかし、それができないものは、  
泣き悲しみつつ、この仲間から去れ※

この世に在る全てのものは  
自然の乳房から歓喜〔神の恵み〕を飲み、  
善なるものも悪なるものもすべて、  
みなバラの道をゆく

(バラは喜びに至る象徴)

歓喜はわれらに口づけ(赦し) 葡萄の蔓を  
与え(葡萄の蔓は救いの継続)  
死の試練を経た友を与える、  
虫けらのような取るに足りない私にも快楽  
を与え  
知性の天使は神の前に立つ！※

楽しそうに神々しく光る星らが  
壮大な天空(軌道)を飛び交うように

走れ、兄弟たちよ、汝の道を、  
英雄が勝利に赴くように、喜びに満ちて。

幾万人の人々よ、わが抱擁を受けよ！（神  
に抱かれて生きよう。抱かれて有れ）  
この接吻を（赦し）を全世界に与えよう！  
兄弟たちよ！星空の彼方には、  
愛する父が必ずおられる。

幾万人の人々よ、地にひれ伏すか！  
世界よ、創造の主を予感するか！  
星空の彼方に主を求めよ！  
星空の彼方に、愛する父は必ずおられる。

幾万人の人々よ、わが抱擁を受けよ！（神  
に抱かれて生きよう。抱かれて有れ）  
この接吻を（赦し）全世界に与えよう！  
兄弟たちよ！星空の彼方には、  
愛する父が必ずおられる。  
この接吻を全世界に、この接吻を全世界に  
全、全世界に！  
歓喜、歓喜、美しい聖霊の輝き  
聖霊の輝き、樂園からの乙女  
聖霊の輝き、聖霊の輝き

## 最後の片付け

### （1）かたづけるとは形をつける

区切りをつける事、決着をつける事、本来在るべき形をつくる、本来在るべき姿とは形の究極は空、形あるものは必ず滅ぶ、片付けるとは捨てることなり等いろいろ考えながら事務所の最後の片付けに精をだしています。

30 余年の私の歴史を捨てるわけですから、ひとつひとつの書類に感慨がこもります。

時として、在りし日のその光景が今ここに在るかのように再現されます。

喜びも悲しみも。何度も引っ越しをしているのでその都度、整理はしてきましたが、今度は後が無い最後の整理、保管場所がありません。原則全て廃棄です。書籍も個人的な歴史書、宗教書、坂村真民詩集等捨て難いものがあります。ここで感慨無量になっては前に進みません。事務所の人に迷惑をかけまいと休日に一人で片付けていては時間がかかるばかり、ついに時間が迫り、スタッフの皆さんにお詫びを言いながら平日に片付けを始めました。皆の前では涙は流せませんから作業は進みます。できる事なら一括して全てを破棄したのですが、分別をしなければなりませんから、全てのファイルページを取り出します。その時どうしても目がそのものに向きます。

### （2）イタリアにも顧問先があった

実に幅広い驚くほどの仕事をしてきました。自分でもビックリする程の難しい事案を処理しています。イタリアのボローニアに本社のあるお客様の書類、英語の簿記、訪問記録は良くできています。幾度か本社を訪問し株主総会で報告しました。一度は夫婦同伴を依頼されましたので妻を伴って旅費を計上したら、早速私の事務所に税務署が調査にやって来られ、妻の渡航費は業務に関係ないとして否認され、修正申告で税金を追徴された事まで思い出してしまいました。私は二度税務調査を受けました。勲章だといわれました。税理士には交際費はいらないかいるかでも聞いた。面白かったです。福利厚生費も交通費も異常に多いと指摘されましたが、こちらは、しっかり説明しました。解ってもらうのに随分エネルギーがいりました。話がそれてしまいました。

(3) イスラエルに平和を願う活動もあった

イスラエルの資料も捨て難い思いが残り、今しばらく保留としましたが、それをどうするのか？と聞かれても返答はできません。

1993/3/31 花の中の碑「念ずれば花ひらく」303番碑の資料と1999ダビデ3000年事業に参加、お客様、友人にご協力頂き241本の苗木(1本100ドル当時120円前後)をエルサレムのヘブライ大学植物園に寄贈しました。協力してくださった方々の名簿もあります。捨てるわけにはいきません。私が死んだら棺の中に入れてもらうよう遺言しようと思います。

(4) 片付けは体力がいる

その他雑誌の寄稿原稿等個人史の詰まった物が、驚くほど出てきました。

片付けは疲れます。1日片付けては翌日はダウンする繰り返しの日々です。

このような片付けをしないで、死亡すると遺族は同じように苦労するのだ、そう自分自身は自分の死後の為に片付けているのだと言いきかせながら頑張っています。

12月も中旬になり後ろがなくなり10箱を自宅に送り、作業を延期しました。家には片付けの名人がおります。どんな片付けのコンサルタントも及ばない経験の持ち主です。厳しい指導が待っています。片付けとは置き換える事ではない。不要な物を捨てることだとの厳しい指導が待っています。かくて現役の引退とは、全て死に向う準備であることを痛感しています。

持ち帰った資料を再整理する段階で一冊の本が書けるように感じています。バブル経済を生きた者として、バブル経済前後を証拠資料を用いて後世に残せるかもしれません。それも形をつける一つの方法です。片付けるを英和辞典で調べました。clean. clear. settle. 関連語としてdecideとあり、

ほぼ日本語と同じ概念です。清潔にする、明らかにする、見えるようにする、その為には決断が必要という事になります。

50年前頃には年末と言えば大掃除が習慣でした。今この習慣が続いていたら街中が粗大ごみだらけになっていることでしょう。歳をとると捨てるようになります。老害の一つです。遺族が困らないように遺言と整理(捨てること)を、元気なうちにされることをお勧めします。遺言も整理も体力が要ります。

(5) 形をつければ先が見えてくる

現役最後の12月、整理しながら富山、福岡へ飛び、宝塚は2往復、第九が3回、忘年会は8回、アドベントとクリスマス、パソコン教室(銀座アップル)現役時代以上に移動しています。早く落ちていて本来の目標に向かいたいと急ぐ気持ちに可笑しくなります。何と幸せなこと。形をつければ先が見えてくる。捨てれば先が見えてくる。

大晦日は家族で兵庫県立芸術文化センター、佐渡裕さん指揮のコンサートで新年を迎えます。皆さまもどうぞ良いお年をお迎えくださいませ。

追記

中川右介さんの新著「ベートーヴェン最大の交響曲の神話一第九」は素晴らしい内容です。私の書きたいスタイルです。専門家はいますね。私が考えることは何処かで誰かがしているものとは解っていますが先を越された感じは否めません。第九を聴きながら読んでみます。

シラー研究の大家と言っても過言ではない藤井義正さんから頂いた資料も熟読させて頂きベートーヴェンの感性に迫ってみたいと楽しみが増えました。来年も忙しくなりそうです。

小原 靖夫